

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2023年度 助成者)

作成日 2023年 8月 31日

氏名 (フリガナ)	橋本瑞樹 (ハシモトミズキ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2023年8月14日 (月) ~ 8月19日 (土)
大学名	名古屋大学
学年	5年

まず初めに、この度はこのような素晴らしいプログラムへ参加できたこと、そして経済的なご支援を頂けたことに大変感謝しております。財団の皆様や関係各所の皆様に厚く御礼申し上げます。

私が今回このプログラムに参加しようと思った理由はいくつかありますが、国際的な視野を広げていきたいというのが最も大きかったです。日本国内だけでなく諸外国にまで視野を広げることで、より多くのことを吸収できると私は思っています。

本プログラムでは Case Presentation に重きが置かれていました。患者役の人から問診で情報を集め、医師にプレゼンテーションを行うというものです。私の大学でも何度か行ったことはありますが、正直まだまだどのようにすればいいのか全然分かっていない状態でした。アメリカ式の医学教育、特にハワイ大学医学部(JABSOM)では、低学年の頃からこの練習を授業で行うということでした。私が持つイメージですが、日本の医学教育は知識を詰め込むことの比重がかなり大きいとっていて、この形式の練習が授業で行われるのは、実践的かつ現場でも使えるものだと感じて、アメリカの医学教育の良い点だなと思いました。

私は英語にあまり自信がなかったのですが、教えて頂いた典型的な表現をまずは真似することから始め、何度も繰り返し練習するうちに慣れていくのがこの期間で感じる事が出来ました。いざ、外国人の医師にプレゼンをするとなると緊張しましたが、プレゼン後には良い点と改善すべき点を丁寧に説明して下さる先生ばかりだったので、ホッとしましたしその度に成長を実感することが出来ました。JABSOMの学生も Case Presentation に関するアドバイスをくれたので、たくさん学びがありました。

プログラムを通して私が驚いたことに、PBLに関する事がありました。日本の医学部でもPBLがカリキュラムに組み込まれているところがあると思います。私の大学でもそうですが、今回私が参加したPBLは私が経験したことのあるものと少し違うという印象を受けました。私が以前に経験したPBLでは、調べたことを発表しあうという感じが強かったですが、現地でのPBLでは、お互いに知っていること調べたことを教えあって共有するという感じがありました。言葉にするとあまり上手く伝わらないのですが、より洗練されているという印象でした。日本の医学教育はアメリカの形式の教育を真似している部分が多いと思いますが、私の通う大学で行われるPBLに関しては、まだ改善できる点があるのだと感じました。

何よりも嬉しかったことは、志高い仲間が出来たことでしょうか。海外志向が強い人や、様々な経験を積んできている人など、個性的な日本の医学生が友人が出来ました。勿論、ハワイの医学生とも仲良くなる事が出来ました。この縁を今後も大事にしていきたいと思っています。彼らのように一生懸命頑張っている人のことを思い出すと、自分の頑張ろうという気持ちになるので、また私自身も普段の学習から様々な活動まで幅広く頑張っていこうと思っています。

はじめは短期間のプログラムだと思っていましたが、中身の濃い、大変充実したプログラムでした。現地でご指導いただいた先生方、素晴らしいプログラムを組んでくださった Hawaii Tokai International College の皆様、引率の先生方、医学生の皆様、全ての人に改めて感謝申し上げます。